

○<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110902-00000107-san-soci>

## 関電、45億円申告漏れ 原発関連の金属くず安価売却

[産経新聞](#) 9月2日(金)7時55分配信

関西電力（大阪市北区）が大阪国税局の税務調査を受け、原子力発電所の関連工事で排出された金属くずを、原発周辺の地元業者に実勢価格より10億円以上安い価格で売却した取引などをめぐり、平成22年3月期までの5年間で約45億円の申告漏れを指摘されていたことが1日、分かった。

地元業者が金属くずの転売で多額の利益を得た可能性もあるが、関電側は競争入札など適正な手続きで売却価格を決めたとし、「利益供与ではない」と強調。国税局は、取引に重加算税の対象となる仮装・隠蔽（いんぺい）行為は認められなかったと判断し、悪質な所得隠しではなく、申告漏れと認定したという。

関電は過少申告加算税を含めて数億円を追徴課税（更正処分）され、すでに納税を済ませている。

関電地域共生・広報室は「国税局との見解の相違によるもので、当社の主張が認められなかったのは残念。今後も適正な税務申告に努めたい」と話している。

○<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110908-00000130-san-soci>

## 税理士組合、1億円申告漏れ 保険仲介事業めぐり

[産経新聞](#) 9月8日(木)15時4分配信

大阪府と奈良県の税理士約8千人が加盟する「大阪・奈良税理士協同組合」（大阪市中区）が、大阪国税局の税務調査を受け、生命保険の仲介事業をめぐり、平成21年5月までの4年間で約1億円の申告漏れを指摘されていたことが8日、分かった。追徴税額は過少申告加算税を含め約2400万円で、同組合はすでに修正申告し、納税も済ませた。

関係者によると、同組合では毎年9～11月、提携先の各生命保険会社に対し、組合員の各税理士が顧問先企業などを紹介するキャンペーンを展開。毎年2月には、契約を成立させた保険会社の営業社員を800～千人規模でホテルに招待して飲食を提供し、数万円単位の商品券を渡したりしていた。

同組合では、ホテルでの飲食などにかかった費用について毎年、保険仲介の事業推進費として経費計上。しかし、国税局では経費とはならない交際費に当たると指摘したという。

同組合は「指摘には納得できない部分はあったが、修正申告には応じた。今後は適正な申告に努めたい」と話している。

○[http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110909-00000504-san-bus\\_all](http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110909-00000504-san-bus_all)

## ブランド品種のネット販売で2億5千万円申告漏れ 仙台国税局指摘

[産経新聞](#) 9月9日(金)1時47分配信

高級ブランド品種のイチゴやサクランボをインターネットを通じて販売していた宮城、

山形両県の農家約40世帯が仙台国税局の税務調査を受け、計約2億5千万円の申告漏れを指摘されていたことが8日、関係者への取材で分かった。仮装・隠蔽を伴う悪質な所得隠しも一部で認定され、追徴税額は重加算税などを含め約8千万円に上るとみられる。

販路が安定し、利幅の大きいネットによる産地直送商法は、農家の間で流行しているが、源泉徴収がある会社員に比べて所得把握が難しく、“申告漏れ”の温床とも指摘されていた。国税当局はここ数年、ネット取引の監視を強化し、農家所得の把握にも努めている。

関係者によると、仙台国税局は宮城、山形両県で約900世帯あるイチゴ、サクランボ農家のうち数十世帯の農家を抽出し、最長で平成21年12月までの7年間の取引状況などを調査した。

その結果、農業協同組合（JA）を通じて出荷した所得分は正しく申告されていたが、ネットで販売した所得の多くが申告されていなかった。ネット販売では、数戸の農家が共同で行っていたケースもあったという。最も大きな申告漏れ額は1億円近くだった。

○<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110909-00000125-san-soci>

## 農家、2億5000万申告漏れ 宮城・山形40世帯

[産経新聞](#) 9月9日(金)7時55分配信

高級ブランド品種のイチゴやサクランボをインターネットを通じて販売していた宮城、山形両県の農家約40世帯が仙台国税局の税務調査を受け、計約2億5千万円の申告漏れを指摘されていたことが8日、関係者への取材で分かった。仮装・隠蔽（いんぺい）を伴う悪質な所得隠しも一部で認定され、追徴税額は重加算税などを含め約8千万円に上るとみられる。

販路が安定し、利幅の大きいネットによる産地直送商法は、農家の間で流行しているが、源泉徴収がある会社員に比べて所得把握が難しく、“申告漏れ”の温床とも指摘されていた。国税当局はここ数年、ネット取引の監視を強化し、農家所得の把握にも努めている。

関係者によると、仙台国税局は宮城、山形両県で約900世帯あるイチゴ、サクランボ農家のうち数十世帯の農家を抽出し、最長で平成21年12月までの7年間の取引状況などを調査した。

その結果、農業協同組合（JA）を通じて出荷した所得分は正しく申告されていたが、ネットで販売した所得の多くが申告されていなかった。

ネット販売では、数戸の農家が共同で行っていたケースもあったという。最も大きな申告漏れ額は1億円近くだった。

○<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20110915-OYT1T00010.htm>

## 税務調査で金庫から大量の金塊、7億円脱税容疑

長野地検は13日、父親から相続した遺産の金塊を隠すなどして約7億4770万円を脱税したとして、元銀行員で岡谷市湊、会社役員山岡忠典容疑者（61）を相続税法違反（脱税）の疑いで逮捕した。

地検は同日、関東信越国税局と合同で関係先を家宅捜索した。

発表によると、山岡容疑者は2007年4月に86歳で死亡した父親から、金塊や株、預貯金など計約19億4000万円分の遺産を母親ら家族4人と共同で相続したが、08年2月に諏訪税務署に課税対象の財産額を約1億1000万円、相続税額を180万円と虚偽申告し、正規の税額との差額約7億4770万円の相続税を免れた疑い。地検は認否を明らかにしていない。

相続した遺産は父親が株式投資や不動産賃貸などで得た財産。関東信越国税局の09年の税務調査で、山岡容疑者の自宅の金庫からは、申告されていなかった1本時価400万円相当の金塊が大量に見つかったという。山岡容疑者は長男で、母親らの相続分も代理で申告していた。

山岡容疑者は父親の死後、銀行を退職し、父親が経営していた「岡谷結束糸工業」（岡谷市湊）の代表取締役役に就任した。

今年4月からは町内会長を務めていたといい、近所の60歳代男性は「元銀行員らしく真面目な人柄なので、脱税と聞いて驚いた。ごまかしをする人ではないと思っていた」と話した。

（2011年9月15日07時07分 読売新聞）